



如月(きさらぎ)

2月の和名である如月という言葉は、厳しい寒さに耐えるため、更に衣を重ねることから「衣更着(きさらぎ)」、草木の芽が張り出す時期であるから「草木張月(くさきはりづき)」、陽気が更に来る時期であるから「気更来(きさらぎ)」など、由来は諸説あります。いずれも寒さの中にも春に向けての息吹を感じるような、晩冬から初春に移ろう2月らしい謂れです。

他にも、「初花月(はつはなづき)」「雪消月(ゆききえづき)」「雁帰月(かりかえりづき)」「梅見月(うめみづき)」などがあります。



【子ども科学館教室】フラットおおむら



○ 4日(土) 10:00~ ⇒折り紙教室

○ 5日(日) 10:00~ ⇒押し花教室

○11日(土) 10:00~ ⇒ミニ実験教室

○12日(日) 10:00~ ⇒科学講座

○18日(土) 10:00~ ⇒竹細工教室

○19日(日) 10:00~ ⇒バルーンアート教室

○25日(土) 14:00~ ⇒科学工作教室

○26日(日) 10:00~ ⇒子ども映画会

問合せ:社会教育課 ☎53-4111 (内線84-154)

今月の歳時記

2月3日「節分(せつぶん)」

元は各季節の始まりの日の前日のことでした。今のように立春(旧暦で1年の始まり)の前日のことを指すようになったのは、江戸時代のことです。

節分といえば豆まき。これは、季節の変わり目には鬼(=「邪気」の象徴)がでやすいと考えられていたことに由来します。鬼に豆をぶつけて鬼を追い払い、かわりに福を呼び込もうというわけです。



2月4日「立春(りっしゅん)」

二十四節気(せつぎ)の第1番目。旧暦ではこの日が1年の始まりです。そして、暦の上では今日から春となります。

春といえまだまだ寒い日が続く時期ですが、じきに梅の花もほころんで、春の気配も感じられるようになります。ちなみに、この日から春分(しゅんぶん)の間に、今年初めて吹く南寄りの強い風が「春一番」です。

2月11日「建国記念の日(けんこくきねんのひ)」

「建国をしのび、国を愛する心を養う日」として、1966年の祝日法改正により国民の祝日に加えられました。名称に「の」を挿入した「建国記念の日」として“建国されたという事象そのものを記念する日”であるとも解釈できるようにし、1967年から適用されました。



2月19日「雨水(うすい)」



空から降るものが雪から雨に変わり、氷が溶け始めるという意味です。草木が芽生える頃で、昔から農耕の準備を始める目安とされてきました。

しかし、本格的な春の訪れにはまだ遠く、大雪が降ることもあります。三寒四温を繰り返しながら春に向かっていきます。

2月の補導巡視活動

☆愛の声かけ・巡回活動ありがとうございます☆

地区名	集合場所	日程	時刻
西大村	西大村小学校	2月9日(木)・22日(水)	19:30
中央	中央小学校	2月10日(金)・24日(金)	19:30
放虎原	放虎原小学校	2月14日(火)・28日(火)	18:30
三城	市民交流プラザ	2月11日(土)・25日(土)	19:00



発行:社会教育課
電話:53-4111
内線:84-155

シーハットおおむら ～イベント情報～

「前川清ファミリーコンサート」

歌で魅了、トークで笑顔。心温まるステージ

日時:令和5年2月15日(水)

13:00(開演)

会場:シーハットおおむら メインアリーナ

指定制料金: S席 6,800円

問合せ:シーハットおおむら

☎20-7207(9:00~17:00)



「OMURA プラス2023」

ポップス&ジャズコンサート♪
吹奏楽とビッグバンドの祭典！！



日時:令和5年2月19日(日)

15:00(開演) 14:30(開場)

会場:シーハットおおむら さくらホール

完売御礼

問合せ:シーハットおおむら ☎20-7207

※行事内容は、発行時現在のものです。ご不明な場合は、事前に直接主催者にお問い合わせをお願いいたします。

「大村市市制施行81周年」

大村市は、昭和17年2月11日、大村町に萱瀬村、松原村、福重村、鈴田村、三浦村が合併し、市制を施行して今年で81周年を迎えます。人口は、98,305人(R4.12月末現在)で、県内13市の中で唯一増え続けています。空港、高速インターチェンジ、新幹線の駅を有する大村市は、高速交通の拠点都市となっています。

来る2月10日(金)には、シーハットおおむら「さくらホール」で、「大村市市制施行81周年記念大村市表彰式」が開催されます。

確定申告、市・県民税申告 お忘れなく！！

西大村地区会場での申告

期間:2月7日(火)~10日(月)

場所:中地区公民館

**申告期限
3月15日**

※上記日程に都合がつかれない場合

期間:3月1日(水)~3月15日(水) 市役所大会議室

※中地区公民館・市役所とも平日のみ

受付時間:9:00~12:00 13:00~16:00

問合せ:税務課 ☎53-4111 (内線122)



「梅のことわざ」



2月1日の誕生花は「梅」です。古くから、花・香り・果実の3拍子揃った春を告げる落葉花木として、全国各地で植栽され広く親しまれてきました。また、「梅」にまつわる諺(ことわざ)や言い伝えは、たくさんあり、日本の生活の身近に「梅」は息づいていました。皆さんは、いくつご存じですか。

○梅根性に柿根性・梅は梅干しにしても梅肉エキスにしても、煮ても焼いてもまだすっぱいことから、頑固でなかなか変わらない性質、いい意味で頑張り屋さんのことを「梅根性」といいます。「柿根性」は、渋柿は焼けばすぐに渋(しぶ)がとれ、干し柿にすると一晩で甘くなることから、いつけん頑固そうに見えても、変わりやすい性質のことです。

○梅は百花の魁(さきがけ)・年の初め、梅があらゆる花の先頭を切って咲き、春を告げることをいいます。

○桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿・桜と梅の剪定法の違いを伝えることわざで、桜は切り口から腐ることがあるので切らない方がよく、梅は切り口から小枝が密生し枝ぶりがよくなり、よく伸びて花をつけ実を結ぶから切ったほうがよいという意味です。

○梅干しと友達は古い程良い・梅干しは長く漬けたもののほうが味がよく、友達は昔から付き合っている人ほど気心が知れ、信頼できることをいいます。

○梅に鶯・仲の良いもの。調和して絵になるもののたとえです。同じ意味で「梅に鶯、柳に燕」があります。